

東京都／産婦人科

田中 彩さん

同性ならではの目線で  
女性の医療にかかわっていききたい



先輩ママより「これから出産するママへのメッセージ」の前で。趣味は茶道、ワイン、ゴルフ、テニスと多岐に渡る。特にワインはソムリエ資格を持つほどの本格的なもの。  
【文・写真／プレジオ編集部】

◆中央線沿線の閑静な住宅街、杉並区阿佐谷北にある河北総合病院。診察が終わり落ち着いた時間に産婦人科医の田中さんを訪ねた。

父をはじめとして親戚にも医師が多く、自然と同じ道へ。同性の目線で女性医師だけにしかできない事があるのではないかと産婦人科医を選んだ。産婦人科はお産も含め、夜間の緊急対応が多い診療科のひとつ。「当直は多いのですが、体力には自信があります。新しい命の誕生に立ち会えると疲れも吹き飛びます」と笑顔で語る。

診察で心掛けていることは「一人一人の患者さんに丁寧に対応すること」。医師から見れば大勢の患者さんでも、患者さんから見ればたった一人の医師だからだ。

「お産だけでなく思春期から老年期までその方の一生に関わっていききたい」と言う田中さんは患者との繋がりを大事にしている。だからこそ、二人目のお産で受診した患者さんに「先生に取り上げてもらった一人目がこんなに大きくなりました」と言われたときにはとても嬉しかったという。最近実感するのは、都会での働く女性の多さ。「仕事を待つ女性はキャリアアップとともにライフプランも考えています。これからの産婦人科のニーズも不妊治療など多岐に渡っていくと思います。それに応えるためにもまだまだ勉強したいことが沢山あります。留学して見識を深めたり、大学院で研究もしたい。でも今は現場で広く色々なことを経験しながら学びたいと思います」と熱く語る。

田中さんの真摯な向上心は多くの女性の活躍を医療の面から支えていくことだろう。